

平成26年度地域文化学専攻・比較文化学専攻学生派遣事業研究成果レポート

西山文愛

1. 事業実施の目的

- (1) 日本国内では入手不可な、東南アジアの小鳥飼育研究の文献資料、実物資料収集。
- (2) ベルギー・ハルベーケ市でVinkensports(ズアオアトリの鳴き合わせ会)の実態調査、関連資料調査。
- (3) パリの鳥市場、カナリア鳴き合わせ会の実態調査。

2. 実施場所

- (1) 鳴鳥に関する資料を所蔵するフランス国内の図書館・博物館、美術館、研究機関
- (2) ベルギー・ハーレルベーケ市
- (3) パリ・シテ島

3. 実施期日平成27年1月31日(土)から3月30日(月)

4. 成果報告

●事業の概要

本事業は、大別して2つの活動内容に分けられる。①小鳥の「鳴鳥飼育」に関する人類学的研究の資料収集・渉猟と、②ヨーロッパにおける鳴鳥飼育の実態調査の2つである。

①小鳥の「鳴鳥飼育」に関する、特にアジアに関する人類学研究の資料収集は、極東学院付属図書館、ケ・ブランリー美術館付属図書館、フランス国立図書館で実施した。アジアにおける鳴鳥飼育についての学術的な文献資料は非常に少ない。そのなかで、近年、ヨーロッパでは世界各地の「鳴鳥飼育」とその文化的背景に関して考究した研究が蓄積されてきた。ヨーロッパ内でおこなわれている「鳴鳥飼育」に限らず、報告者が研究対象としている東南アジアで行われている「鳴鳥飼育」の研究論文や映像資料も急速に集積されてきているため、今回の調査で研究の最新動向に接することができた。

小鳥飼育に関する実物資料(鳥に歌を教える楽器や楽譜、鳥籠、鳴鳥の剥製資料等)や、鳴鳥・鳥籠を描いた絵画資料、鳴鳥に関する映像音響資料については、これらの資料を所蔵する極東学院付属図書館、ケ・ブランリー美術館付属図書館、フランス国立図書館、フランス音楽博物館、狩猟博物館、自然史博物館、パリ工芸博物館、ルーブル美術館、ギメ東洋美術館において、熟覧・視聴をおこない、必要に応じて関連文献も複写・収集した。これにより、これまでの研究の渉猟が可能となった。

②報告者は、最終的に東南アジアで活発におこなわれている「小鳥の鳴き合わせ会」を調査研究対象としているが、ヨーロッパでおこなわれている「小鳥の鳴き合わせ会」の現地観察をし、博士論文研究の比較検討資料を入手することができた。具体的には、ヨーロッパにおける鳴鳥飼

育の調査は、ベルギー・ハーレルベーク市とフランス・パリのシテ島で実施した。

ベルギー・ハーレルベーク市では、vinkensportと呼ばれる「ズアオアトリの鳴き合わせ会」が1596年から現在まで活発におこなわれている。ベルギー・ハーレルベーク市役所のアーキビストとの面談による聞き取り調査、同市で保存されている実物資料の閲覧、映像・音響資料の視聴・収集をおこなった。また、市内老人ホームでおこなわれていたvinkensportにまつわる展示に足をこび、展示内容について調査した。

パリ・シテ島では、毎週日曜日に小鳥市場が開催されている。2ヶ月間毎週日曜日に小鳥市場で観察をおこなうとともに、随時鳥を販売する人や鳴き合わせに関与していると思われる人々への聞き取りを通じて、小鳥市場の実態を把握した。

●本事業の実施によって得られた成果

①「鳴鳥飼育」に関する人類学的研究の資料収集・渉猟。

関連資料の収集に関しては、フランスでの書籍、論文、映像・音響資料、ベルギー・ハーレルベーク市のアーカイブセンターより入手した資料など、日本国内で入手が困難な資料を収集することができた。

特に、フランスで1990年に開始された東南アジアの人類学研究の一部で、東南アジアにおける鳥のシンボリックな側面に焦点をあてた、Pierre Le Rouxによる南タイの少数民族ジャウイの人々がおこなっているチョウショウバト飼育の映像資料 ”Burông Tité”や、おなじくLe Rouxら23人の研究者による研究報告“Les Messagers divins : Aspects esthétiques et symboliques des oiseaux en Asie du Sud-Est, édition bilingue français-anglais”などの研究報告や映像資料の入手は大きな成果であったと言える。来年度以降東南アジアをフィールドにしておこなう実地調査や、博士論文の作成においても、今回の入手資料を活用する。

②ヨーロッパにおける鳴鳥飼育の実態調査。

ベルギー・ハーレルベーク市でvinkensport（ズアオアトリの鳴き合わせ会）の実態調査

今回の調査では、vinkensportに関する文献資料の閲覧、2014年に閉鎖したvinkensport museumに収蔵されていた実物資料の熟覧(図1, 図2, 図3)、ドキュメンタリー映像の視聴をおこなった。さらに、市の老人ホームでおこなわれていた”vinkensport”の展示も視察することができた。ベルギー・ハーレルベーク市役所のアーキビストFrederik氏の協力を得て、ハーレルベーク市滞在中には、vinkensportの聞き取り調査をおこなった。聞き取り調査によって、1596年からおこなわれてきた「鳴き合わせ」のルール、飼育者と鳥の関係、飼育者同士の関係性を明らかにすることができた。あわせて、鳥かごや鳴き合わせに使用される用具を調査したほか、鳴き合わせコミュニティに関する資料収集もおこなった。

東南アジアでおこなわれる「鳴き合わせ会」は、綺麗な鳴き声を競わせるのが主流で、

多額の賞金がかけている。一方、ベルギーのvinekensportは鳴き声の数をカウントするルールで「スポーツ」の一貫としておこなわれている。そのため、vinkensportの勝者は賞金ではなく花や賞状を授与され、それが名誉となることが明らかになった。vinkensportは男性が大多数を占めてはいるが、老若男女を問わず幅広いプレイヤーが存在していることも確認できた。このことは、鳴き声をカウントして競い合う、明瞭なvinkensoprtのルールと関係していると、報告者は考えている。



図1 ハーレルベークのアーカイブセンターが収集したvinkensprtに用いられる鳥かご。(報告者撮影。2015年2月20日撮影)



図2 1965年に優勝したズアオアトリの剥製（報告者撮影。2015年3月20日撮影）



図3 大会で鳥の鳴き声をカウントするための棒（報告者撮影。2015年3月20日撮影）

パリ・シテ島の小鳥市場での実態調査

パリ・シテ島では毎週日曜日の朝8時から日没まで小鳥市場が開かれている。報告者は鳴き合わせのような会が開かれているという情報をもとに、2月から3月の日曜日にパリ・シテ島に出向き、参与観察と聞き取り調査をおこなった。シテ島では、①鳴き合わせに用いる小鳥と、②色や羽毛のコンテストに用いる小鳥、③ペット用の小鳥、④家禽、⑤鳥以外の小動物、⑥鳥かご、⑦鳥の餌、⑧ペット用品が販売されている。100mの道なりに15店舗ほどの出店で小鳥行の人たちが商いをしている。

報告者は、はじめの1ヶ月は観察をおこない、残りの1ヶ月は聞き取り調査を実施した。聞き取り調査は、正規に小鳥を販売する人たちと(図4)、小鳥を販売している人たちの裏で小鳥の取引をしている男性集団を対象としておこなった(図5、図6)。

小鳥の販売業者の人たちで、鳴鳥用としてカナリアを販売している業者からは、大会のルール、綺麗な鳴き声の継承方法、綺麗な鳴き声の基準、鳥の価格、鳥の種類、売られている鳥の雌雄、小鳥の入手方法、鳥の飼育方法について聞き取りを行った。

販売業者の裏で、小さな鳥かごに1羽の小鳥を入れてやり取りをしている男性集団に、「鳴き合わせをしているのか」と質問をしたところ、彼らは表通りで営業許可を取らずに、小鳥を販売していることがわかった。買い手は、鳴き合わせコンクールに参加する個人の客、男性集団間での売買、正規の販売業者だという。

鳥の種類としては、①野生のゴシキヒワやズアオアトリなどのさえずりの美しいオスドリ②原種の野生カナリアのメス、③ゴシキヒワやズアオアトリとカナリアのメスを掛け合わせた”Mule”と呼ばれる鳥が販売されていた。掛け合わせで作られた”Mule”は、鳴き声が美しいとされているゴシキヒワやズアオアトリ(雄)とカナリア(雌)の掛け合わせをおこない、コンクールに参加するなど、鳴き声を楽しむ人たちに向けて販売をしている。また、”Mule”は繁殖力が弱いため1代繁殖であるという。自家繁殖ができない”Mule”に関する鳥の販売をおこなっていることがわかった。

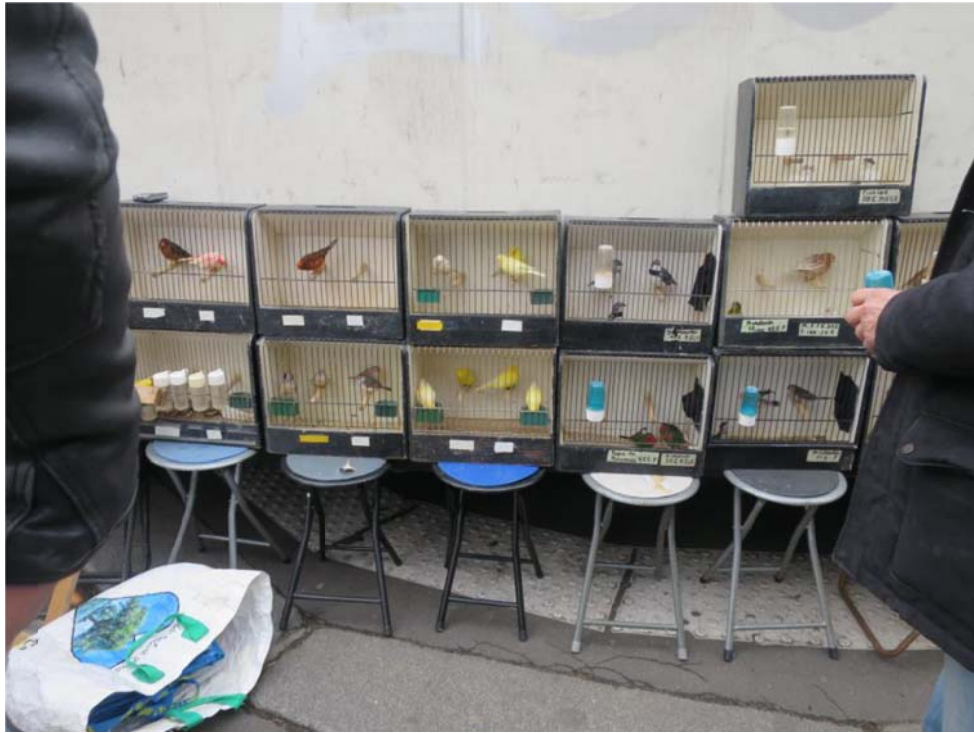


図4 表通りで正規に小鳥を販売する人々。（報告者撮影。2015年2月20日撮影）



図5鳥かごに入った小鳥を持ち合い、取引をする男性集団（報告者撮影。2015年2月20日撮影）



図6 自分の鳥かごを掲げる人物。鳥かごの中にはゴシキヒワとカナリアの掛け合わせ”Mule”
(報告者撮影。2015年2月20日撮影)

本事業の実施によって得られた最大成果は、文献資料の渉猟が出来たことと、上述のような人々と出会い、ヨーロッパにおける鳴鳥飼育の傾向や特色を明らかにできたことである。

博士論文研究にむけて、鳴鳥飼育に熱意を持ち交流を行う人々をより多角的に考察するために必要な視点とデータを得られた。また、結果として次年度からの調査について展望が開けた。今回の調査で得られた知見をもとに、博士論文の計画作成および次年度からの調査を実施していく。

●本事業について

報告者が円滑に現地調査を遂行し、無事に帰国できたことは本事業の援助があつてのことです。厚くお礼申し上げます。収集した「鳴鳥飼育」に関する資料や、聞き取り調査で得た資料は、これまで日本では蓄積されていないもので、文化人類学の上でも非常に貴重な資料だと思います。本当にありがとうございました。